

「(仮称) 栄処理区柏尾川右岸雨水幹線及び栄第二水再生センター第4ポンプ施設整備事業」の事前評価調書(案)に対する市民からの御意見の内容と
ご意見に対する横浜市の考え方

○横浜市公共事業評価事前評価における市民意見

募集期間 令和3年3月1日～3月31日

市民意見 6件

いただいたご意見と、ご指摘に対する横浜市の見解を、次のとおりまとめました。
なお、市の評価の確定にあたり、委員意見及び市民意見を踏まえ、5ページ目で誤字の修正(局地的集中象雨⇒局地的集中豪雨)及び人口に関する記載を追記しました。

○お寄せいただいたご意見と横浜市の見解

ご意見の概要	ご意見に対する横浜市の見解
<p>事業内容に特に問題はないと考えますが、用語等をもう少し説明してほしい</p> <p>(1) 合流幹線の仕組み 整備前の図は(雨水・汚水)合流幹線を柏尾川に流しているが、通常は合流下水道は水再生センターに流すのではないかと大雨が降って流しきれなくなると柏尾川へ流すのではないかと</p> <p>(2) 新設ポンプ場のポンプ新設 ポンプ(汚水)を新設するとあるが、ここでは分流式の説明になっている。分流式であれば汚水管に雨水等が流入するため容量が増える。そのためのポンプを新設するのではないかと</p> <p>(3) 雨水幹線が遠廻りの理由は何か? ⑤の幹線は川の西側金井地区へ一度西</p>	<p>(1) 図2の整備イメージ図は本事業の主目的である浸水対策(雨水)についての水の流れのイメージを記載したものです。一般的に合流式下水道は、晴天時は水再生センターで汚水を処理し、大雨時は汚水が雨水によって一定以上の倍率に希釈されると河川へ放流されます。</p> <p>(2) 戸塚ポンプ場は現在、雨水ポンプと汚水ポンプが整備されています。再構築時には雨水ポンプの排水能力だけでなく、汚水ポンプの送水能力も本事業によって新設する幹線と新設雨水ポンプ及び汚水ポンプで担うことで、円滑に再構築事業を実施できるようにします。</p> <p>(3) 幹線のルートについては、原則として公道内を通過することが可能なルートのうち、</p>

<p>へ行く（遠廻り）。これは公道の下をトンネルを掘る方が費用の点から有利なためと推測します。</p> <p>(4) 幹線は遊水池としての機能を想定していますか？</p> <p>この事業は重要で、柏尾川の洪水対策としても寄与するのではと考えています。以下は例です。</p> <p>幹線内に貯留できる容量は何 m³ でそれは例として舞岡の遊水池が〇〇m³ と同じくらいになります。</p> <p>(5) 下水道の長期計画を作成してほしい</p> <p>戸塚区俣野町に住んでいますが、水害の多発地区です。マンホールから雨水、汚水があふれます。これらはいつ改善するのでしょうか？10年くらいの長期計画を作成してほしい。</p> <p>(6) P5. 集中象雨とありますが豪雨ではないでしょうか。</p>	<p>最も経済的なルートを選定しています。</p> <p>(4) 本事業の幹線は内水浸水対策として、時間降雨量約 50mm を超える雨水を取り込んで、新設するポンプ場より排水をしながら貯留させる機能を有した管渠です。</p> <p>(5) ご指摘の戸塚区俣野町については、本事業の対象流域には含まれていません。頂いたご意見は今後の検討の参考にさせていただきます。</p> <p>(6) ご指摘の通り、修正します。</p>
--	--